

小樽商科大学附属図書館主催 市立小樽図書館後援

ゆめぽーとライブ 第24弾

北海道命名150年記念企画

舟本秀男氏

(株)財界さっぽろ代表取締役社長

(小樽商科大学経営協議会委員)

平成30年6月27日(水)

18:00 ~ 19:30

会場: 小樽商科大学附属図書館 2階

★舟本氏からのメッセージ★

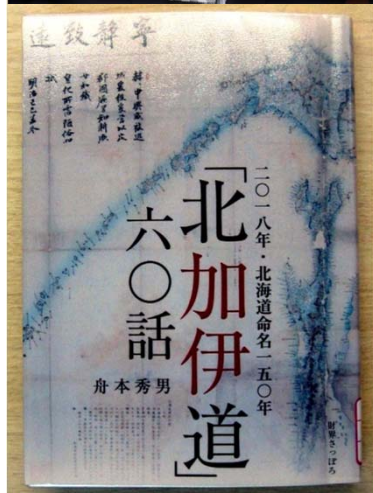
「本年(2018年)は北海道と命名されて150年を迎える年です。この地は縄文時代、続縄文時代、擦文時代、近世の前半までアイヌ民族の生活の場でした。"アイヌたちは、自然界をカムイ(神)として尊び、祈り、泣き、怒り、喜び、まことに豊かなくらしを送ってきました"(知里幸恵 アイヌ神謡集より)。

狩猟民族として自然環境を大事にする循環型の生活を営む一方、蝦夷地・東北北部、千島列島、樺太に広く展開し、大陸にも進出する交易民族として活躍していました。鎌倉時代には、40年にもわたって元(蒙古)とも戦ったという歴史もあります。

和人が蝦夷地に進出し始め、商い場地行制(後の場所請負人制)になると、請負人に非道な扱いを受け、コシャマインの戦い、シャクシャインの戦い、クナシリ・メナシの戦いで松前藩や請負人に敗戦すると、抵抗力を削がれ一層の虐待を受けることになり、その人口は激減していきました。

明治に入り「同化政策」により狩猟民族としての生活が根底から覆され、先住民族でありながら「旧土人保護法」の下で管理されることになりました。「旧土人」という蔑称は平成9年まで99年間も続き、「先住民族」と認められたのは平成19年になってからです(わずか10年前)。

私たちは、北海道命名150年の年に、先住民族アイヌの方々の叫びを理解するべきではないでしょうか。



入場自由(無料) 学内外問わず、どなた様でも ご聴講できます。

※自由に入場可能ですが、席に限りがあります。なるべく事前の申込みをお願いします。

お申込み先: 小樽商科大学附属図書館 学術情報課 利用者支援係

電話: 0134-27-6541, 5273 メール: lib-unyo@office.otaru-uc.ac.jp

●私たちは先住民族の叫びを理解しているだろうか●

アイヌ民族苦難の歴史